

株 主 各 位

東京都新宿区西新宿八丁目17番1号
株式会社 セプテーニ・ホールディングス
代表取締役社長 佐藤 光 紀

第25回定時株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社第25回定時株主総会を下記により開催いたしますので、ご出席くださいますようお願い申し上げます。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面によって議決権を行使することができますので、お手数ながら後記株主総会参考書類をご検討くださいませ、同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご表示いただき、平成27年12月17日（木曜日）午後6時までに到着するようご返送いただきたく、お願い申し上げます。

敬具

記

1. 日 時 平成27年12月18日（金曜日）午前10時
 2. 場 所 東京都新宿区西新宿八丁目17番1号
住友不動産新宿グランドタワー27階
当社カンファレンスルーム
(末尾記載の「定時株主総会会場ご案内図」をご参照ください。)
 3. 目 的 事 項
報告事項
 1. 第25期（平成26年10月1日から平成27年9月30日まで）事業報告、連結計算書類並びに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第25期（平成26年10月1日から平成27年9月30日まで）計算書類報告の件
- 決議事項
- 第1号議案 取締役8名選任の件
- 第2号議案 監査役2名選任の件

以 上

-
1. 当日ご出席の際には、お手数ですが議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。
 2. 連結計算書類の連結注記表及び計算書類の個別注記表につきましては、法令及び当社定款第18条に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<http://www.septeni-holdings.co.jp/>) に掲載しておりますので、本株主総会招集ご通知添付書類には記載していません。また、事業報告、連結計算書類、計算書類及び株主総会参考書類に修正をすべき事情が生じた場合は、同ウェブサイトにおいて修正後の事項を掲載させていただきます。

株主総会参考書類

議案及び参考事項

第1号議案 取締役8名選任の件

本総会終結の時をもって取締役全員（7名）が任期満了退任となります。つきましては、コーポレート・ガバナンスの更なる強化を図るため社外取締役1名を増員し、社外取締役2名を含む取締役8名の選任をお願いするものであります。

取締役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当並びに重要な兼職の状況	所有する当社株式の数
1	佐藤 光紀 (昭和50年3月11日生)	平成9年4月 当社入社 平成13年7月 当社取締役インターネット事業本部長 平成15年10月 当社CMO常務取締役 平成16年12月 当社COO専務取締役 平成19年10月 当社専務取締役 平成21年12月 当社代表取締役社長（現任） (重要な兼職の状況) (株)セプテーニ代表取締役	98,000株
2	上野 勇 (昭和43年6月1日生)	平成10年9月 当社入社 平成15年11月 当社執行役員人事総務部長 平成16年12月 当社取締役人事総務部長 平成17年12月 当社常務取締役 平成21年12月 当社専務取締役（現任）	86,000株
3	清水 一身 (昭和38年8月8日生)	平成16年10月 当社入社 平成17年12月 当社取締役経営管理部部長 平成21年12月 当社常務取締役（現任）	18,800株
4	松田 忠洋 (昭和48年5月7日生)	平成10年4月 当社入社 平成16年10月 当社大阪支社長 平成17年7月 当社メディア本部長 平成17年12月 当社取締役（現任） 平成21年8月 (株)セプテーニ・クロスゲート代表取締役	24,000株

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位及び担当並びに 重要な兼職の状況	所有する当社 株式の数
5	唐木信太郎 (昭和53年6月1日生)	平成13年4月 当社入社 平成18年10月 (株)セプテーニ・クロスゲート代表取締役 平成22年1月 当社経営企画部部长 平成24年12月 当社取締役経営企画部部长(現任)	8,100株
6	瀬戸口佳奈 (昭和50年8月23日生)	平成10年4月 当社入社 平成21年12月 (株)セプテーニ取締役 平成23年12月 (株)セプテーニ常務取締役(現任) 平成25年10月 当社国際事業推進部部长 平成25年12月 当社取締役国際事業推進部部长 平成26年4月 当社取締役(現任) (重要な兼職の状況) (株)セプテーニ常務取締役	89,800株
7	木村達也 (昭和33年11月24日生)	平成13年4月 日本大学大学院グローバルビジネス研究科助教授 平成15年4月 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科助教授 平成18年4月 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授 平成18年12月 当社監査役 平成19年4月 早稲田大学大学院商学研究科教授(現任) 平成26年12月 当社社外取締役(現任)	一株
8 (新任)	岡島悦子 (昭和41年5月16日生)	平成元年4月 三菱商事(株)入社 平成13年1月 マッキンゼー・アンド・カンパニー・インコーポレイテッド・ジャパン入社 平成14年3月 (株)グロービス・マネジメント・バンク入社 平成17年7月 (株)グロービス・マネジメント・バンク代表取締役社長 平成19年6月 (株)プロノバ代表取締役社長(現任) 平成26年6月 アステラス製薬(株)社外取締役(現任) 平成26年6月 (株)丸井グループ社外取締役(現任) 平成27年11月 (株)ランサーズ社外取締役(現任) (重要な兼職の状況) (株)プロノバ代表取締役社長 アステラス製薬(株)社外取締役 (株)丸井グループ社外取締役 (株)ランサーズ社外取締役	一株

- (注) 1. 候補者岡島悦子氏の戸籍上の氏名は、^{みの}巳野悦子です。
2. 候補者木村達也氏及び候補者岡島悦子氏は、社外取締役候補者であります。

3. 候補者岡島悦子氏は、㈱プロノバの代表取締役社長であり、同社と当社子会社の㈱セプテーニとの間で、女性幹部育成支援に関する業務委託契約を締結しております。
4. 上記3以外に、各候補者と当社との間には、特別の利害関係はありません。
5. 候補者木村達也氏は、平成26年12月に当社の社外取締役就任し、その在任期間は、本総会終結の時をもって1年となります。同氏は、企業経営分野における造詣が深く、幅広い知識と高い見識に基づき、社外取締役として当社グループの経営全般に関し有用な助言を行ったことから、候補者といたしました。なお、同氏は、社外役員になること以外の方法で会社経営に関与したことはありませんが、上記理由に基づき、当社の社外取締役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。
6. 候補者岡島悦子氏は、会社経営の豊富な経験・知識と幅広い見識を有していることから、独立した客観的な立場で、社外取締役としての職務を適切に遂行できると判断し、候補者といたしました。
7. 本総会において、候補者木村達也氏及び候補者岡島悦子氏の選任が承認された場合は、当社との間で、会社法第423条第1項の賠償責任について、賠償限度額を500万円又は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額とする責任限定契約を締結する予定であります。
8. 当社は、候補者木村達也氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

第2号議案 監査役2名選任の件

本総会終結の時をもって、監査役柳克久氏及び大滝令嗣氏は任期満了退任となります。つきましては、監査役2名の選任をお願いするものであります。なお、本議案については、監査役会の同意を得ております。

監査役候補者は次のとおりであります。

候補者番号	氏名 (生年月日)	略歴、当社における地位並びに重要な兼職の状況	所有する当社株式の数
1	やなぎ 柳 かつ 久 (昭和15年11月22日生)	昭和38年4月 (株)埼玉銀行(現(株)りそな銀行) 入行 平成12年6月 あさひカード(株)(現りそなカード(株)) 常勤監査役 平成14年12月 当社監査役 平成17年12月 当社常勤監査役(現任)	13,700株
2 (新任)	ふる しま まもる 古 島 守 (昭和45年2月16日生)	平成5年10月 中央監査法人入所 平成9年4月 公認会計士登録 平成12年8月 監査法人不二会計事務所入所 平成15年8月 PwCアドバイザリー(株)入社 平成19年11月 最高裁判所司法研修所入所 平成20年12月 東京弁護士会登録 平成21年1月 奥野総合法律事務所入所 平成27年4月 古島法律会計事務所代表(現任) 平成27年6月 日本化学工業(株)社外取締役(監査等委員)(現任) (重要な兼職の状況) 古島法律会計事務所代表 日本化学工業(株)社外取締役(監査等委員)	一株

- (注) 1. 各候補者と当社の間には、特別の利害関係はありません。
 2. 候補者柳克久氏及び候補者古島守氏は、社外監査役候補者であります。
 3. 候補者柳克久氏は、平成14年12月に当社の社外監査役に就任し、その在任期間は、本総会終結の時をもって13年となります。この間、同氏は、金融機関等における豊富な経験と幅広い見識に基づき大所高所からの有益な助言と独立した立場からの監査を行ったことから、引き続きこれらの監査を期待して、候補者となりました。
 4. 候補者古島守氏は、弁護士及び公認会計士としての豊富な経験・専門知識と企業法務・監査に関する幅広い見識を有していることから、社外監査役としての職務を適切に遂行できると判断し、候補者となりました。なお、同氏は、社外役員になること以外の方法で会社経営に関与したことはありませんが、上記理由に基づき、当社の社外監査役としての職務を適切に遂行いただけるものと判断しております。
 5. 本総会において、候補者柳克久氏及び候補者古島守氏の選任が承認された場合は、当社との間で、会社法第423条第1項の賠償責任について、賠償限度額を500万円又は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額とする責任限定契約を締結する予定であります。

以 上

事業報告

(平成26年10月1日から
平成27年9月30日まで)

1. 企業集団の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

当連結会計年度（以下「当期」という。）における我が国経済は、政府による経済・財政政策や米国経済の拡大を背景に、輸出企業を中心に企業業績は概ね堅調に推移したものの、設備投資や個人消費が伸び悩むとともに、中国や新興国の成長鈍化による世界経済の減速懸念もあり、先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの主な事業領域であるインターネットビジネスを取り巻く環境につきましては、スマートフォンの普及が急速に進んでおり、その国内契約数は平成27年3月末時点で6,850万件、携帯電話契約数の54.1%を占めるまでになっております（出所：MM総研）。このように、スマートフォンがインターネット利用デバイスの主流になりつつあることで、スマートフォン向けの広告や各種サービス・コンテンツの市場が拡大しているほか、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）をはじめとするソーシャルメディアもその影響力を一層強めており、そのメディア特性を活かしたマーケティング支援の需要も一段と高まっております。また、このような環境変化は、インターネットビジネスにおけるグローバル展開を促進することにもつながっており、海外での事業機会も広がっております。

このような状況のもと、当社グループにおいては、成長分野である「モバイル」、「ソーシャル」、「グローバル」に注力した事業展開を推進し、主力のネットマーケティング事業において引き続き業容拡大と収益性向上を両立することができました。また、将来的な競争力強化のために人材や新規事業等への先行投資も積極的に行いました。これらの結果、連結売上高は64,547百万円（前期比18.8%増）、営業利益は2,753百万円（前期比21.9%増）、経常利益は3,118百万円（前期比32.0%増）となりました。また、平成26年10月1日付でDM事業子会社の全株式を売却したことに伴う子会社株式売却益を中心に合計1,238百万円の特別利益を計上いたしました。

以上の結果、当期純利益は2,398百万円（前期比54.8%増）となり、売上高と全ての利益項目において4期連続で過去最高を更新いたしました。

当期の期末配当金につきましては、上記の業績及び会社の利益配分に関する基本方針を踏まえまして、平成27年11月26日開催の取締役会決議により、1株につき14円とさせていただきます。

これにより配当金総額は362,825,400円となりました。

主な事業区分別の業績概況は以下の通りです。

【ネットマーケティング事業】

インターネットを活用した包括的なマーケティング支援サービスを企業向けに展開しております。具体的には、インターネット広告の販売やウェブソリューション（サイト構築・運用、SEO等）の提供をはじめ、自社サービスとしてアドネットワーク等のマーケティングプラットフォームやクラウド型CRMサービスの運営を手がけております。

当期においては、スマートフォン向けの運用型広告を中心とするネット広告市場の拡大を背景に、「モバイル」、「ソーシャル」、「グローバル」という成長分野へ注力したことが奏功し、順調に業容を拡大させるとともに収益性の向上も両立できました。スマートフォン向け広告においては、需要の拡大とともに広告商品の多様化も進んだことで高成長が続き、売上高は前期比約1.7倍となりました。また、当社グループが強みを持つSNSを活用したマーケティング支援サービスを中心とするソーシャル事業についても、主力のFacebook広告に加えTwitter広告の成長が加速したことも寄与し、売上高は前期比約2.1倍と大幅に伸びました。一方、海外での事業展開も積極的に推進し、北米を中心に既存拠点の取扱高が増加したほか、韓国のネット広告企業を新たに連結対象としたこともあり、海外売上高は前期比約2.2倍と大幅に拡大いたしました。

これらの結果、売上高は61,563百万円（前期比27.5%増）、営業利益は3,686百万円（前期比34.5%増）となりました。

【メディアコンテンツ事業】

主にスマートフォン向けに、モバイルゲームをはじめとする各種デジタルコンテンツを企画・開発し、SNSやアプリマーケット等様々なプラットフォームを通じて生活者に提供しております。また、自社IP（知的財産）の企画・開発を目的に、マンガ家の育成・輩出、マンガ配信サービスの運営を手がけております。

当期においては、アクセルマーク(株)が手がけるモバイルゲーム事業において、ネイティブアプリゲームを2タイトルリリースいたしました。このうち、「キングダム -英雄の系譜-」は堅調に推移したものの、その他のタイトルが伸び悩んだこともあり、同事業は前期比で減収となりました。

一方、マンガコンテンツ事業については、プラットフォームの規模拡大に向けて、作家育成と配信サービス拡充の両面で先行投資を積極的に実施いたしました。その結果、連載型新作マンガ配信サービス「GANMA!」のユーザー数が着実に増加し、アプリの累計ダウンロード数は平成27年9月末時点で180万と大きく成長いたしました。また、自社IPである連載マンガ作品の商業化を推進し、当期中にはアニメ1作品、書籍3作品を手がけました。

これらの結果、売上高は3,278百万円（前期比5.2%減）、営業損失は528百万円（前期は277百万円の営業損失）となりました。

(2) 対処すべき課題

当社グループは、これからも引き続き利益成長を加速させていく所存であり、平成25年11月に策定した中期経営方針では、「利益倍増」をコンセプトにしております。これは、既存事業、新規事業を問わず高収益事業の構成比を高めるとともに、ネット広告に次ぐ事業の柱をつくっていくことで当社グループの更なる利益拡大と企業価値の向上を目指すものです。そのために、「モバイル」「ソーシャル」「グローバル」の3分野を注力分野として位置づけており、これらの分野を中心に既存事業の強化と新規事業の開発を推進することで、当社グループの更なる業容拡大と収益性の向上に努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(3) 設備投資の状況

当連結会計年度の設備投資は169百万円であり、その主なものは本社事務所の増床に伴う設備などの新設であります。

(4) 資金調達の状況

特記すべき事項はありません。

(5) 事業の譲渡、吸収分割又は新設分割の状況

平成26年10月1日付で、株式会社セプテーニ・ダイレクトマーケティングの全株式を株式会社ゼンリンに譲渡いたしました。

(6) 事業の譲受けの状況

特記すべき事項はありません。

(7) 吸収合併又は吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況

特記すべき事項はありません。

(8) 他の会社の株式その他持分又は新株予約権等の取得又は処分の状況
特記すべき事項はありません。

(9) 財産及び損益の状況

(単位：千円)

区 分	第22期 平成24年9月期	第23期 平成25年9月期	第24期 平成26年9月期	第25期 平成27年9月期
売上高	41,358,333	45,982,078	54,345,580	64,547,685
経常利益	1,638,236	1,752,653	2,362,887	3,118,052
当期純利益	677,182	1,207,196	1,549,187	2,398,059
1株当たり当期純利益(円)	5,381.15	47.90	61.22	92.87
総資産	14,362,659	16,023,329	21,625,786	25,387,848
純資産	7,246,304	8,380,310	10,203,263	12,286,188

(注) 当社は、平成25年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を実施しております。上記の1株当たり当期純利益については、当該株式分割が第23期の期首に行われたものと仮定して算出しております。

(10) 重要な親会社及び子会社の状況 (平成27年9月30日現在)

① 親会社との関係
該当事項はありません。

② 重要な子会社の状況

会社名	資本金 又は出資金	当社の議 決権比率	主要な事業内容
株式会社セプテーニ	300,000千円	100.0%	インターネット広告事業
アクセルマーク株式会社	563,900千円	54.9%	主にスマートフォン向けの各種デジタルコンテンツの企画・開発・運営

(注) 1. 当社の連結子会社は、上記の重要な子会社を含め25社であります。
2. 当社には、会社法に規定される特定完全子会社はありません。

(11) 主要な事業内容（平成27年9月30日現在）

区 分	主要な事業内容
ネットマーケティング事業	インターネットを活用した包括的なマーケティング支援サービス全般
メディアコンテンツ事業	主にスマートフォン向けのモバイルゲームを中心とした各種デジタルコンテンツの企画・開発・運営および自社IP（知的財産）の企画・開発を目的としたマンガ家の育成・輩出、マンガ配信サービスの運営

(12) 主要な事業所（平成27年9月30日現在）

会 社 名	事業所名	所 在 地
当 社	本社	東京都新宿区
株 式 会 社 セ プ テ ー ニ	本社	東京都新宿区
	関西支社	大阪府北区
	名古屋支社	名古屋市中区
	福岡支社	福岡市中央区
アクセルマーク株式会社	本社	東京都中野区

(13) 従業員の状況（平成27年9月30日現在）

従 業 員 数	前 期 末 比 増 減
846名	37名増

(14) 主な借入先（平成27年9月30日現在）

特記すべき事項はありません。

(15) その他企業集団の現況に関する重要な事項

特記すべき事項はありません。

2. 会社の状況に関する事項

(1) 株式に関する事項（平成27年9月30日現在）

- | | |
|----------------------|-------------|
| ① 発行可能株式総数 | 74,016,000株 |
| ② 発行済株式の総数 | 27,700,700株 |
| ③ 当期末株主数 | 2,983名 |
| ④ 大株主（上位10名、自己株式を除く） | |

株 主 名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	4,251,300	16.40
株 式 会 社 ビ レ ッ ジ セ ブ ン	3,343,800	12.90
七 村 守	3,190,100	12.31
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	2,183,900	8.43
ヤ フ ー 株 式 会 社	1,400,000	5.40
資産管理サービス信託銀行株式会社（証券投資信託口）	1,111,800	4.29
GOLDMAN SACHS INTERNATIONAL	804,132	3.10
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口9）	505,600	1.95
MSCO CUSTOMER SECURITIES	481,500	1.86
清 水 洋	440,000	1.70

(注) 上記持株比率については、自己株式（1,784,600株）を控除して算出しております。

⑤ その他株式に関する重要な事項

当期中の新株予約権の権利行使により発行済株式の総数は553,700株増加いたしました。

(2) 新株予約権等に関する事項（平成27年9月30日現在）

① 当社役員が保有している新株予約権等の状況

発行決議日	平成16年6月10日	平成17年3月10日	平成18年1月25日	
区 分	取締役	取締役	取締役	監査役
保有者数	1名	1名	2名	1名
新株予約権の数	60個	45個	120個	10個
目的となる株式の数	24,000株	18,000株	24,000株	2,000株
目的となる株式の種類	普通株式	普通株式	普通株式	
発行価額	無償	無償	無償	
権利行使時の1株当たり払込金額	7円	7円	7円	
権利行使期間	平成16年6月29日から平成45年12月18日まで	平成17年3月16日から平成46年12月16日まで	平成18年2月1日から平成47年12月20日まで	
備 考	株式報酬型 ストックオプション	株式報酬型 ストックオプション	株式報酬型 ストックオプション	

発行決議日	平成19年1月19日	平成20年1月17日	平成21年1月15日
区 分	取締役	取締役	取締役
保有者数	1名	1名	1名
新株予約権の数	20個	15個	15個
目的となる株式の数	4,000株	3,000株	3,000株
目的となる株式の種類	普通株式	普通株式	普通株式
発行価額	731円	802円	304円
権利行使時の1株当たり払込金額	7円	7円	7円
権利行使期間	平成20年2月1日から平成49年12月31日まで	平成21年2月1日から平成49年12月31日まで	平成22年2月1日から平成49年12月31日まで
備 考	役員報酬型 ストックオプション	役員報酬型 ストックオプション	役員報酬型 ストックオプション

発行決議日	平成26年1月21日	平成27年1月20日	
区 分	取締役	取締役	監査役
保有者数	1名	6名	4名
新株予約権の数	37個	289個	47個
目的となる株式の数	3,700株	28,900株	4,700株
目的となる株式の種類	普通株式	普通株式	
発行価額	1,284円	1,035円	
権利行使時の1株当たり払込金額	7円	7円	
権利行使期間	平成27年2月1日から平成28年1月31日まで	平成28年2月1日から平成29年1月31日まで	
備 考	役員報酬型 ストックオプション	役員報酬型 ストックオプション	

(注) 平成25年10月1日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行ったことにより、上記に記載の株式の数及び発行価額は、平成26年1月21日以降の決議分を除き、調整されております。

- ② 当事業年度中に従業員等に対して交付した新株予約権等の状況
平成27年1月20日開催の取締役会決議による新株予約権
- (イ) 新株予約権の目的たる株式の種類及び数
普通株式4,600株（新株予約権1個当たり100株）
 - (ロ) 発行する新株予約権の総数
46個
 - (ハ) 交付対象者
当社子会社の取締役5名
 - (ニ) 新株予約権の発行価額
無償とする。
 - (ホ) 各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額
1株当たり7円
 - (ヘ) 新株予約権の権利行使期間
平成27年2月7日から平成29年2月6日までの2年間
 - (ト) 新株予約権の行使の条件
 - 新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社関係会社の取締役、監査役又は従業員のいずれかの地位を有することを要する。ただし、新株予約権者の退任又は退職後の権利行使につき正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りでない。
 - 新株予約権者は、その割当数の一部又は全部を行使することができる。ただし、各新株予約権の1個未満の行使はできないものとする。
- ③ その他新株予約権等に関する重要な事項
特記すべき事項はありません。

(3) 会社役員に関する事項（平成27年9月30日現在）

① 取締役及び監査役に関する事項

地 位	氏 名	担当及び重要な兼職の状況
代表取締役社長	佐藤光紀	(株)セプテーニ 代表取締役
専務取締役	上野 勇	
常務取締役	清水 一身	
取締役	松田 忠洋	
取締役	唐木 信太郎	経営企画部部长
取締役	瀬戸口 佳奈	(株)セプテーニ 常務取締役
取締役	木村 達也	早稲田大学大学院商学研究科教授
常勤監査役	柳 克久	
常勤監査役	野村 宗芳	
監査役	廣渡 嘉秀	(株)AGSコンサルティング 代表取締役 AGS税理士法人 統括代表社員
監査役	大滝 令嗣	早稲田大学大学院商学研究科教授 (株)オフィスクライメイト 代表取締役

- (注) 1. 取締役木村達也氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役柳克久、廣渡嘉秀及び大滝令嗣の3氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 監査役廣渡嘉秀氏は、公認会計士の資格を有しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するものであります。
4. 当社は、取締役木村達也氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。
5. 当事業年度中の役員の異動は次のとおりであります。
- ・平成26年12月19日開催の第24回定時株主総会にて、木村達也氏は取締役に、野村宗芳氏は監査役に新たに選任されました。
 - ・平成26年12月19日開催の第24回定時株主総会終結の時をもって、七村守氏、野村宗芳氏は任期満了につき取締役を退任いたしました。

② 取締役及び監査役の報酬等の額

区分	支給人員	役員報酬	摘要
取締役	9名	260,710千円	うち、社外取締役1名4,500千円
監査役	4名	39,242千円	うち、社外監査役3名19,724千円

- (注) 1. 取締役の報酬等の額には、平成26年12月19日開催の第24回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名の在任中の報酬等の額が含まれております。
2. 上記報酬等の額には、取締役及び監査役にストックオプションとして付与した新株予約権に係る当期中の費用計上額を含んでおります。
3. 取締役のうち、当社子会社の取締役兼務に係る報酬等は当該子会社で一部費用を負担しております。上記の当社負担額と子会社負担額を合計した取締役の報酬等の額は320,512千円となります。
4. 上記報酬等の額のほか、平成15年12月18日開催の第13回定時株主総会において承認可決された役員退職慰労金制度の廃止に伴う打ち切り支給決議に基づき、平成26年12月19日開催の第24回定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名に対する役員退職慰労金を32,551千円支給しております。

③ 社外役員に関する事項

(イ) 重要な兼職先と当社との関係

区分	氏名	重要な兼職	当社との関係
取締役	木村達也	早稲田大学大学院商学研究科教授	取引関係はありません。
監査役	廣渡嘉秀	株式会社AGSコンサルティング 代表取締役	重要な取引関係はありません。
		AGS税理士法人 統括代表社員	重要な取引関係はありません。
監査役	大滝令嗣	早稲田大学大学院商学研究科教授	取引関係はありません。
		株式会社オフィスクライメイト 代表取締役	取引関係はありません。

(ロ) 当事業年度における主な活動状況

区分	氏名	主な活動状況
取締役	木村達也	平成26年12月19日の就任以降開催の取締役会全てに出席し、主に学識経験者としての専門的見地から発言を行っております。
監査役	柳克久	当期開催の取締役会と監査役会の全てに出席し、適宜発言を行っている他、その他の重要会議にも出席し、取締役の職務執行を常にモニタリングしております。また、当社の主な子会社の監査役も兼務し、グループ全体の監査体制の強化を図っております。
監査役	廣渡嘉秀	当期開催の取締役会には16回中13回、監査役会には15回中13回出席し、主に公認会計士としての専門的見地から発言を行っております。
監査役	大滝令嗣	当期開催の取締役会には16回中13回、監査役会には15回中14回出席し、主に学識経験者としての専門的見地から発言を行っております。

④ 責任限定契約の内容

当社は、社外取締役及び社外監査役全員との間で会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は、500万円又は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額としております。

(4) 会計監査人の状況（平成27年9月30日現在）

① 名称

新日本有限責任監査法人

② 報酬等の額

(イ) 当社が支払うべき公認会計士法第2条第1項の監査業務の報酬

32,000千円

(ロ) 当社および当社子会社が支払うべき金銭その他の財産上の利益の合計額

53,800千円

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬の額を区分しておりませんので、上記報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務（非監査業務）であるIFRS（国際財務報告基準）に関する助言業務を委託し、その対価を支払っています。
3. 監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、会計監査人の監査計画、監査の実施状況、報酬見積りの算出根拠などを確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等について会社法第399条第1項の同意を行っております。

③ 責任限定契約の内容

当社は会計監査人との間で会社法第423条第1項の賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく賠償の限度額は、3,000万円又は会社法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額としております。

④ 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合に、株主総会に提出する会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定いたします。また、監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号のいずれかに該当すると認められた場合に、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。

3. 会社の体制及び方針

(1) 剰余金の配当等の決定に関する方針

剰余金の配当につきましては、各事業年度の連結業績、財務体質の強化、今後のグループ事業戦略等を考慮して、連結当期純利益に対する配当性向15%程度を目安とし、当社の分配可能額の範囲内で利益還元を実施してまいりたいと考えております。さらに、原則として1株当たり年間配当金の下限を5円と設定することで、業績の拡大に応じた適切な利益配分を基本としながら、配当の継続性・安定性にも配慮してまいります。また、内部留保金につきましては、成長性・収益性の高い事業分野への投資とともに、既存事業の効率化・活性化のための投資及び人材育成のための教育投資として活用してまいります。

自己株式の取得につきましても、株主の皆様に対する有効な利益還元のひとつと考えており、株価の動向や財務状況等を考慮しながら適切に対応してまいります。

(2) 業務の適正を確保するための体制

① 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

イ) 取締役は、法令、社会倫理の遵守を、全ての行動基準、意思決定基準に当然に優先するものであり、その上で、法令、定款、社会倫理の遵守を率先して実践・啓蒙し、適正な職務執行を行うことを確認しております。

ロ) 当社および当社子会社から成るセプテーニグループ（以下、セプテーニグループという）全体のコンプライアンス及びリスク管理に関する状況及び対応についてはリスク管理委員会にて検討し、その結果等については定期的に取り締り会へ報告を行っております。

② 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

イ) 取締役は、法令、定款、社内規程に基づき職務の執行に係る文書等（電磁的記録を含む。）を適切に管理、保存します。当該文書等には、株主総会議事録、取締役会議事録、稟議書のみならず、取締役が参加する重要な会議に関する議事の経過の記録も含まれます。

ロ) 情報の保存、管理を電磁的記録によって行う場合には、情報システム担当者と協議の上、ハッカー等電子情報に与える脅威に関する最新の情報の収集に努め、可能な限り最新の保存、管理体制を構築します。

③ 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

イ) 当社は、セプテーニグループの事業経営に影響を与える全ての損失の危険（以下、リスクという）を発見・特定し、かつ経営レベルで掌握するとともに、商品・サービスの品質と安全性の確保を優先に、顧客、取引先、株主・投資家、地域社会等の各利害関係者、役員及び使用人の利益阻害要因の除去・軽減に誠実に努めます。

ロ) リスク管理については、通常時においては事業分野毎にリスク分析と対策を検討し、責任者がリスク管理委員会に報告します。重要な事項に関しては、リスク管理委員会にて統括します。また、緊急時においては、社長を本部長とする危機管理対策本部が統括します。

ハ) セプテーニグループ全体に係るリスクやM&Aのような戦略的意思決定に関するリスクの評価・対応については、取締役会の専決事項とします。

④ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は、職務分掌に基づき各取締役に必要な権限を付与し、職務の執行の効率性を確保する体制を整備するとともに、子会社が重要な意思決定を行う場合には、子会社からの事前協議に基づき、グループ会社間の事業活動や設備投資の重複を避け、効率的な資源配分となるよう当社取締役会が主体的に調整を行います。

⑤ 使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

イ) 使用人のコンプライアンスを実効的なものにするため、定期的、継続的なコンプライアンス研修を実施するとともに、使用人からの組織的又は個人的な法令違反行為等に関する通報又は相談に適正に対応するセプテーニグループ企業倫理ホットライン事務局を設置します。

ロ) 使用人からの通報又は相談による調査の結果、不正行為が明らかになった場合には、取締役は速やかに是正措置及び再発防止措置を講じ、セプテーニグループに対して周知徹底させます。

- ⑥ 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- イ) 当社は、セプテーニグループの事業運営に関し、法令、社会倫理の遵守、リスク管理、取締役の職務執行の効率性の確保、並びに、取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための共通の規範、規程を整備しております。また、当社は、子会社の事業経営については、自主的運営を原則としつつ、子会社の取締役の職務の執行に係る事項の当社への報告体制として、決算状況については、グループ全体の月次会議に報告するとともに、重要な意思決定を行う際には、当社に対して事前協議を行うものとし、
- ロ) 当社の内部監査室は、定期的に当社及び子会社の内部監査を実施し、改善が必要とされる場合には社長の承認を経て勧告書を提示し、その後の改善状況の確認を行うことにより、セプテーニグループ全体の業務の適正性の確保に関する状況を監視します。
- ⑦ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制、当該使用人の取締役からの独立性、及び当該使用人に対する監査役の指示の実効性確保に関する事項
- イ) 監査役は、その職務を補助すべき使用人については、監査役の依頼により、取締役との協議により決定し、常勤監査役の指揮命令権に服するとともに、監査役は、その職務を補助すべき使用人は、他の業務及び役職を兼務しません。
- ロ) 監査役は、その職務を補助すべき使用人の人事異動に関する決定については、常勤監査役の事前の同意を必要とし、監査役は、その職務を補助すべき使用人の給与決定等の人事評価については、他の使用人とは、分離して常勤監査役が行います。
- ⑧ 当社及び子会社の取締役及び使用人が当社監査役に報告をするための体制、当該報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制、監査役は、その職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項、その他監査役は、その職務の執行が実効的に行われることを確保するための体制
- イ) 監査役は、当社及び子会社の取締役会その他、経営会議等の当社及び子会社の重要な会議に出席し、必要に応じて当社及び子会社の取締役及び使用人から説明を求めることができるとともに、監査役は、その職務に関する報告を求めた場合、稟議書、会計帳簿等の文書の閲覧を求めた場合には、当社及び子会社の取締役及び使用人は、迅速かつ適切に対応します。

- ロ) 当社及び子会社の取締役及び使用人並びにこれらの者から報告を受けた者は、セプテーニグループの事業経営及び財務状況に重大な影響を及ぼすおそれがある事項を覚知した場合には、速やかに当社監査役会へ報告します。
- ハ) 内部監査室の実施した内部監査報告は、全て監査役会に報告します。
- ニ) 当社及び子会社において、監査役又は監査役会に上記イ乃至ハの報告を行った者が、当該報告を行ったことを理由として不利な扱いを受けることがないよう対応します。
- ホ) 監査役職務執行に必要な費用は、当社が負担します。

(3) 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

① コンプライアンス及びリスク管理について

当社は、グループ全体のコンプライアンス及びリスク管理に関して、定期的にリスク管理委員会を開催し、対応状況等の共有を行っております。

従業員に対しては、定期的にコンプライアンスに関する研修を実施することにより、意識の向上に取り組みました。また、セプテーニグループ企業倫理ホットライン事務局を設置し、全従業員に周知しております。

② 取締役の職務の執行について

取締役会は、社外取締役1名を含む取締役7名で構成されており、社外監査役3名を含む監査役4名も出席しております。当事業年度において、取締役会を16回開催しており、十分な議論を尽くして経営上の意思決定を行う等、職務の執行が法令及び定款に適合するよう徹底しております。

③ 監査役職務の執行について

監査役会は、社外監査役3名を含む監査役4名で構成されております。当事業年度においては、15回開催しており、常勤監査役からの会社の状況に関する報告及び監査役相互による意見交換等が行われております。

また、監査役は、取締役会を含む重要な会議への出席や代表取締役、会計監査人及び内部監査室と定期的な情報交換を行い、取締役の職務の執行について監視をしております。

(4) 会社の支配に関する基本方針

① 会社の支配に関する基本方針

当社は、金融商品取引所に株式を上場している者として、市場における当社株式等の自由な取引を尊重し、特定の者による当社株式等の大規模買付行為であっても、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものである限り、これを一概に否定するものではありません。また、最終的には株式等の大規模買付提案に応じるかどうかは株主の皆様のご決定に委ねられるべきだと考えています。

但し、株式等の大規模買付提案の中には、例えばステークホルダーとの良好な関係を保ち続けることができない可能性があるなど、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を損なうおそれのあるものや、当社グループの価値を十分に反映しているとは言えないもの、あるいは株主の皆様が最終的な決定をされるために必要な時間や情報が十分に提供されないものもありえます。

そのような提案に対して、当社取締役会は、株主の皆様から負託された者の責務として、株主の皆様のために、必要な時間や情報の確保、株式等の大規模買付提案者との交渉を行う必要があると考えております。

② 会社の支配に関する基本方針の実現に資する取組み

イ) 企業理念及び企業価値の源泉

当社グループは、平成2年の創業以来、社是である「ひねらんかい（知恵を出そう、工夫しよう）」精神のもと、何度か主力事業を転換しながら成長を続けてまいりました。このような成長を支えてきたのは一貫して「人材力」であると考えます。起業家精神に富む情熱的で優れた人材とそのような人材が集まる企業文化・環境こそが、当社グループの企業価値を生み出す最大の源泉であります。

現在は、インターネット広告代理業を中心とした「ネットマーケティング事業」、モバイルゲーム等のデジタルコンテンツを提供する「メディアコンテンツ事業」という2つの事業分野を軸に事業を展開しております。このような変化と競争の激しい事業分野において競合優位性を維持するためには、スピード感のある事業運営や変化への対応力が求められますが、それらを実現するのも人材や組織の力によるところが大きいと考えます。

当社グループは今後も「人」にフォーカスした経営を推進することで既存事業の成長と新規事業の創出に取り組み、企業価値ひいては株主共同の利益の向上に努めてまいります。

ロ) 企業価値向上のための取組み（中期経営方針）

当社グループは、これからも引き続き利益成長を加速させていく所存であり、平成25年11月に策定した中期経営方針では、「利益倍増」をコンセプト

にしております。これは、既存事業、新規事業を問わず高収益事業の構成比を高めるとともに、ネット広告に次ぐ事業の柱をつくっていくことで当社グループの更なる利益拡大と企業価値の向上を目指すものです。そのために、「モバイル」「ソーシャル」「グローバル」の3分野を注力分野として位置づけており、これらの分野を中心に既存事業の強化と新規事業の開発を推進することで、当社グループの更なる業容拡大と収益性の向上に努めてまいります。

ハ) コーポレート・ガバナンスについて

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、持株会社体制によりグループ経営機能と事業執行機能を明確に分離し、グループ事業に対する統制・モニタリング機能を強化することを通じて、健全で透明性の高い経営風土を醸成し、継続的な企業価値の向上を目指すものであります。

当社では、取締役の経営責任を明確にし、経営環境の変化に迅速に対応できる経営体制を構築するため取締役の任期を1年としております。各取締役は、職務分掌にもとづき、権限の集中を排除するとともに相互に監視・牽制する体制をとりながら業務執行を行っております。一方、監査役については、現在選任されている4名のうち3名は会社法の定める社外監査役となっております。常勤監査役は取締役会のほか重要な会議に出席し、取締役の職務執行について厳正な監視を行っております。

当社では、持続的な企業価値向上のため、今後も更なるコーポレート・ガバナンスの充実に努めてまいります。

③ 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組み

当社は、平成24年11月20日開催の当社取締役会において、会社の支配に関する基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務および事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みとして「当社株券等の大規模買付行為に関する対応方針」（以下「本プラン」といいます。）を決定し、平成24年12月21日開催の当社第22回定時株主総会において株主の皆様にご承認をいただき導入しております。

本プランでは、当社株券等の大規模買付を行おうとする者は、(i)事前に大規模買付者から当社取締役会に対して必要かつ十分な情報が提供され、(ii)当社取締役会が当該情報を検討するために必要な一定の評価期間が経過した後のみ大規模買付行為を開始する、という大規模買付のルールを提示しております。大規模買付ルールが遵守されている場合、対抗措置の発動は原則として行いません。ただし、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当該買付提案の内容が当社の企業価値ひいては株主共同の利益を著しく損なうものと認められる場合は株主総会を開催し、対抗措置の発動についての承認に関する

る議案を上程します。本プランに基づき発動する対抗措置は、新株予約権の無償割当て等、会社法その他の法令及び当社の定款上認められる、その時点で最も適切と当社取締役会が判断したものをを用いるものとしますが、当該対抗措置の仕組み上、大規模買付者以外の株主の皆様が、法的権利又は経済的側面において格別の損失または不測の損害を被るような事態が生じることは想定しておりません。

なお、本プランの詳細は、当社ウェブサイト (<http://www.septeni-holdings.co.jp/>) に掲載の平成24(2012)年11月20日付IRニュース(適時開示資料)「当社株券等の大規模買付行為に関する対応方針(買収防衛策)の導入に関するお知らせ」をご参照ください。

④ 上記③の取組みに対する取締役会の判断及びその理由

本プランは、株主の皆様のご利益を確保し又は向上させることを目的として導入するものであり、当社株式に対する大規模買付行為がなされた際に、株主の皆様が、必要かつ十分な情報及び一定の検討期間に基づいて、当該大規模買付行為の提案に応じるか否かをご判断できる仕組みとなっております。

本プランの有効期間は、第22回定時株主総会における承認から約3年としており、その後も継続する場合は、定時株主総会において株主の皆さまにその可否を判断していただくこととなっております。さらに、有効期間の満了前であっても、株主総会又は株主総会において選任された取締役により構成される当社取締役会において本プランを変更又は廃止する旨の決議が行われた場合には、当該決議に従い、本プランは変更又は廃止されることから、株主の皆様のご意思が反映される内容となっております。

対抗措置の発動等については、当社取締役会は、必要に応じて、当社から独立した第三者の立場にある専門家等の助言を得た上で検討を行います。これにより当社取締役会の判断の客観性及び合理性が担保されることとなります。

また、大規模買付ルールを遵守して行われる大規模買付行為に対して対抗措置を発動する場合は株主総会の承認を要することとするなど、合理的かつ客観的な発動要件が充足されなければ発動されないように設定されており、当社取締役会による恣意的な発動を防止するための仕組みを確保しています。

以上のことから、上記③の取組みは、①の基本方針に沿うものであり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を損なうものではなく、また当社役員の地位の維持を目的とするものではないと考えております。

(注) 本事業報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

(平成27年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	[22,486,730]	【流動負債】	[12,941,284]
現金及び預金	12,196,676	買掛金	9,203,035
受取手形及び売掛金	9,822,796	短期借入金	956,470
仕掛品	2,478	1年内返済予定の長期借入金	166,656
貯蔵品	6,122	未払金	396,148
繰延税金資産	211,681	未払法人税等	682,575
その他	251,737	賞与引当金	376,016
貸倒引当金	△4,761	その他	1,160,382
【固定資産】	[2,901,117]	【固定負債】	[160,375]
(有形固定資産)	(248,905)	長期借入金	138,912
建物	136,418	その他	21,463
工具器具及び備品	111,398	負債合計	13,101,659
その他	1,088	(純資産の部)	
(無形固定資産)	(341,935)	【株主資本】	[11,200,087]
のれん	93,406	資本金	2,070,160
ソフトウェア	245,102	資本剰余金	3,160,950
ソフトウェア仮勘定	2,300	利益剰余金	6,453,988
その他	1,126	自己株式	△485,011
(投資その他の資産)	(2,310,275)	【その他の包括利益累計額】	[89,475]
投資有価証券	1,261,053	その他有価証券評価差額金	50,895
敷金及び保証金	681,426	為替換算調整勘定	38,580
繰延税金資産	315,053	【新株予約権】	[35,509]
その他	52,801	【少数株主持分】	[961,116]
貸倒引当金	△59	純資産合計	12,286,188
資産合計	25,387,848	負債・純資産合計	25,387,848

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(平成26年10月1日から
平成27年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
【売 上 高】		64,547,685
【売 上 原 価】		52,851,029
売 上 総 利 益		11,696,655
【販売費及び一般管理費】		8,942,685
営 業 利 益		2,753,969
【営業外収益】		
受 取 利 息	6,542	
受 取 配 当 金	51,048	
投資有価証券評価益	208,759	
為 替 差 益	49,697	
持分法による投資利益	88,878	
そ の 他	32,201	437,127
【営業外費用】		
支 払 利 息	5,247	
株式上場関連費用	15,558	
支 払 手 数 料	45,600	
そ の 他	6,637	73,043
経 常 利 益		3,118,052
【特別利益】		
子会社株式売却益	1,098,885	
投資有価証券売却益	122,545	
そ の 他	17,554	1,238,985
【特別損失】		
減 損 損 失	251,015	
投資有価証券評価損	19,994	
そ の 他	24,903	295,913
税金等調整前当期純利益		4,061,124
法人税、住民税及び事業税	1,492,998	
法 人 税 等 調 整 額	246,512	1,739,511
少数株主損益調整前当期純利益		2,321,613
少 数 株 主 損 失		76,445
当 期 純 利 益		2,398,059

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(平成26年10月1日から
平成27年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	2,053,010	3,148,095	4,284,190	△485,011	9,000,284
連結会計年度中の変動額					
新 株 の 発 行	17,149	12,855			30,005
剰 余 金 の 配 当			△228,261		△228,261
当 期 純 利 益			2,398,059		2,398,059
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計	17,149	12,855	2,169,797	-	2,199,803
当 期 末 残 高	2,070,160	3,160,950	6,453,988	△485,011	11,200,087

(単位：千円)

	その他の包括利益累計額			新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計			
当 期 首 残 高	119,979	57,036	177,016	29,746	996,215	10,203,263
連結会計年度中の変動額						
新 株 の 発 行						30,005
剰 余 金 の 配 当						△228,261
当 期 純 利 益						2,398,059
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)	△69,084	△18,456	△87,540	5,762	△35,099	△116,877
連結会計年度中の変動額合計	△69,084	△18,456	△87,540	5,762	△35,099	2,082,924
当 期 末 残 高	50,895	38,580	89,475	35,509	961,116	12,286,188

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

独立監査人の監査報告書

平成27年11月13日

株式会社セプテーニ・ホールディングス

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 岡本 和巳 ㊟
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 石井 広幸 ㊟
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、株式会社セプテーニ・ホールディングスの平成26年10月1日から平成27年9月30日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社セプテーニ・ホールディングス及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

貸借対照表

(平成27年9月30日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
【流動資産】	[5,639,521]	【流動負債】	[730,358]
現金及び預金	4,137,985	短期借入金	50,002
売掛金	365,382	未払金	205,207
貯蔵品	3,404	未払費用	39,126
前払費用	64,610	未払法人税等	351,168
未収入金	1,038,020	預り金	16,433
関係会社短期貸付金	10,000	賞与引当金	40,102
繰延税金資産	20,116	その他	28,318
【固定資産】	[4,338,392]	【固定負債】	[266]
(有形固定資産)	(151,214)	長期未払金	266
建物	44,027	負債合計	730,624
建物附属設備	61,660	(純資産の部)	
工具器具及び備品	45,526	【株主資本】	[9,212,030]
(無形固定資産)	(222,768)	(資本金)	(2,070,160)
ソフトウェア	219,840	(資本剰余金)	(2,668,814)
ソフトウェア仮勘定	2,300	資本準備金	2,481,842
その他	627	その他資本剰余金	186,971
(投資その他の資産)	(3,964,409)	(利益剰余金)	(4,958,068)
投資有価証券	424,847	利益準備金	70,867
関係会社株式	2,740,759	その他利益剰余金	4,887,201
敷金及び保証金	467,916	別途積立金	400,000
長期繰延税金資産	316,485	繰越利益剰余金	4,487,201
その他	14,400	(自己株式)	(△485,011)
		【評価・換算差額等】	[34]
		(その他有価証券評価差額金)	(34)
		【新株予約権】	[35,222]
		純資産合計	9,247,288
資産合計	9,977,913	負債・純資産合計	9,977,913

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

損益計算書

(平成26年10月1日から
平成27年9月30日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
【営業収益】		2,842,459
【営業費用】		1,565,691
営業利益		1,276,768
【営業外収益】		
受取利息	776	
受取配当金	71,954	
投資有価証券評価益	213,163	
雑収入	4,987	290,882
【営業外費用】		
支払利息	636	
株式上場関連費用	10,511	
支払手数料	45,600	
雑損失	7,864	64,613
経常利益		1,503,038
【特別利益】		
投資有価証券売却益	49,256	
関係会社株式売却益	1,322,474	
その他	12,125	1,383,855
【特別損失】		
関係会社株式評価損	344,724	
その他	0	344,724
税引前当期純利益		2,542,169
法人税、住民税及び事業税	151,680	
法人税等調整額	356,595	508,275
当期純利益		2,033,894

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

株主資本等変動計算書

(平成26年10月1日から
平成27年9月30日まで)

(単位：千円)

	株 主 資 本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			
		資本 準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益 準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計
					別途 積立金	繰越利益 剰余金		
当 期 首 残 高	2,053,010	2,468,987	186,971	2,655,958	70,867	400,000	2,681,568	3,152,435
事 業 年 度 中 の 変 動 額								
新 株 の 発 行	17,149	12,855		12,855				
剰 余 金 の 配 当							△228,261	△228,261
当 期 純 利 益							2,033,894	2,033,894
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)								
事業年度中の変動額合計	17,149	12,855	—	12,855	—	—	1,805,632	1,805,632
当 期 末 残 高	2,070,160	2,481,842	186,971	2,668,814	70,867	400,000	4,487,201	4,958,068

(単位：千円)

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当 期 首 残 高	△485,011	7,376,393	68	68	29,604	7,406,065
事 業 年 度 中 の 変 動 額						
新 株 の 発 行		30,005				30,005
剰 余 金 の 配 当		△228,261				△228,261
当 期 純 利 益		2,033,894				2,033,894
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)			△33	△33	5,618	5,585
事業年度中の変動額合計	—	1,835,637	△33	△33	5,618	1,841,222
当 期 末 残 高	△485,011	9,212,030	34	34	35,222	9,247,288

(注) 記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

独立監査人の監査報告書

平成27年11月13日

株式会社セプテーニ・ホールディングス

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 岡本 和巳 ㊞
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 石井 広幸 ㊞
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、株式会社セプテーニ・ホールディングスの平成26年10月1日から平成27年9月30日までの第25期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

監査役会の監査報告書 謄本

監 査 報 告 書

当監査役会は、平成26年10月1日から平成27年9月30日までの第25期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査規程に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査部門その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
 - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
 - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、構築及び運用の状況を監視及び検証いたしました。なお、財務報告に係る内部統制については、取締役等及び新日本有限責任監査法人から当該内部統制の評価及び監査の状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
 - ③ 事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号イの基本方針及び同号ロの各取組みについては、取締役会その他における審議の状況等を踏まえ、その内容について検討を加えました。
 - ④ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

2. 監査の結果

(1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、財務報告に係る内部統制を含め、指摘すべき事項は認められません。
- ④ 事業報告に記載されている会社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針については、指摘すべき事項は認められません。事業報告に記載されている会社法施行規則第118条第3号ロの各取組みは、当該基本方針に沿ったものであり、当社の株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社の会社役員としての地位の維持を目的とするものではないと認めます。

(2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

(3) 連結計算書類の監査結果

会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成27年11月18日

株式会社セブテーニ・ホールディングス 監査役会

常勤監査役 柳 克 久 ㊟

常勤監査役 野 村 宗 芳 ㊟

監 査 役 廣 渡 嘉 秀 ㊟

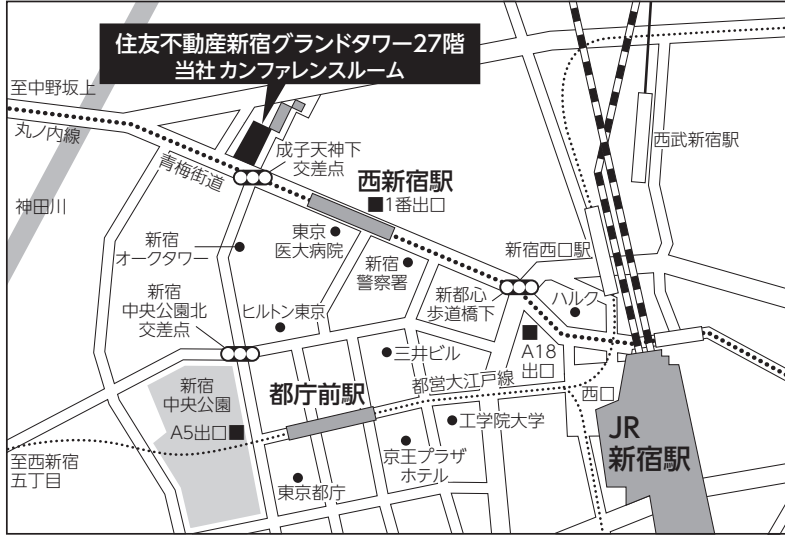
監 査 役 大 滝 令 嗣 ㊟

(注) 常勤監査役柳克久、監査役廣渡嘉秀及び監査役大滝令嗣は、会社法第2条第16号及び第335条第3項に定める社外監査役であります。

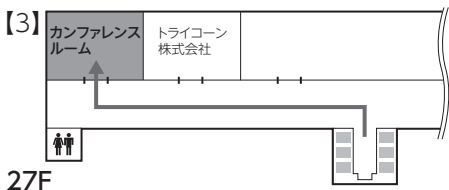
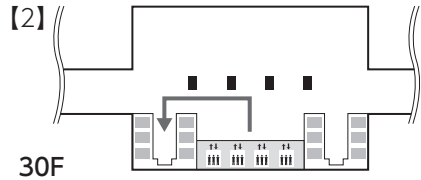
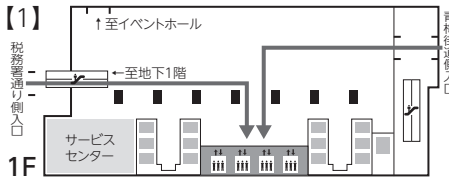
以 上

定時株主総会会場ご案内図

会 場：東京都新宿区西新宿八丁目17番1号
 住友不動産新宿グランドタワー27階 当社カンファレンスルーム
 TEL(03)6863-5623



- 交通機関（各駅からビル1階入口までの所要時間）
 東京メトロ丸ノ内線「西新宿駅」1番出口 徒歩約3分
 都営大江戸線「都庁前駅」A5出口 徒歩約6分
 JR線・京王線・小田急線「新宿駅」西口 徒歩約15分



- [1] 1階入り口に入って進み、中ほどにある30階行きのシャトルエレベーターにて30階までお越しください。
- [2] 30階に到着後、左手の29階～21階行きエレベーターに乗り換え、27階にお越しください。
- [3] 27階に到着後、エレベーターホールからみて左手に進み、一番奥の部屋(右側3つめのドア)がカンファレンスルームでございます。